

第6回アジア学術会議（SCA）の開催（報告）

会議名称：「アジア学術会議」

会 期：4月17日（月）～19日（水）

場 所：モーリア・シェラトン（デリー）

本会議は、日本学術会議の国際活動の一環として、アジア地域における学術研究に関する連携・協力を推進する目的で設立され、毎年1回SCA会合を開催しています。

"Foundation for Sustainable Development to A Prosperous, Harmonious and Greener Asia"をその活動目標とし、現在、11ヶ国（中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ及びベトナム）の学術機関等により構成されています。

今回の会合には、日本からは黒川清会長（SCA事務局長）、石倉洋子副会長をはじめ、総勢16名の科学者が参加しました。会議の初日（17日）では、年次報告、来年の第7回SCA会合、SCAジョイントプロジェクト、及び今後の活動等について議論され、来年の第7回SCA会合は6月14日 - 6月16日に沖縄で開催され、同じく沖縄で6月13日 - 17日に開催される第21回Pacific Science Congress（PSC）と連携・協力して開催されることが了承されました。

また、2日目（18日）には、長崎暢子龍谷大学教授が基調講演として「ガンディーとネルーに対する日本の影響」について発表するとともに、黒崎卓一橋大学教授、深川由起子会員（第一部）も参加し、「農村開発のための組織と能力開発」、「持続可能な開発のための科学の役割」についての公開シンポジウムが行われ、活発な議論が交わされました。この中で、石倉副会長は「持続可能な開発のための科学の役割」のセッションのコーディネーターを勤めました。

G8学術会議の開催（報告）

会議名称：「G8学術会議」

会 期：4月19日（水）～20日（木）

場 所：ロシア科学アカデミー本部（モスクワ）

同会議は、モスクワにおいてG8各国及び中国、インド、ブラジル、南アフリカの学術会議が参加して開かれ、日本学術会議からは、西ヶ廣渉事務局長、中西友子会員（第2部）が参加しました。

会議では、「大規模エネルギーシステムの持続可能性と安全保障」、「鳥インフルエンザを含む感染症の診断と治療における新手法と展望」について議論と意見交換が行われました。この会議において、G8サミットにむけてエネルギー安全保障と鳥インフルエンザについてのG8学術会議としての共同声明についてのコメントを求め、今後、参加国の了解を得た後、5月の中旬か下旬に最終案を提出する合意を得ました。

また、次回の会合について、ドイツの「レポルディーナ自然科学アカデミー」ヴォルカー・ムーレン会長から同国において開催するとの発言がありました。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）

(Tel:03-3403-5731、i252@scj.go.jp)

カフェと科学のおいしい関係「サイエンスカフェ」の実施（報告）

科学と社会委員会科学力増進分科会は、科学技術週間（4月17日～23日）中に、科学技術振興機構、文部科学省、日本科学未来館、そして各地の団体など数多くの方々のご協力を得て、北海道から沖縄までの全国21ヶ所で「サイエンスカフェ」を開催しました。

日本学術会議の会員が全国へ飛び、喫茶店など身近な場所でコーヒーを飲みながらくつろいだ雰囲気の中で、科学者と市民とのコミュニケーションを図り、科学への理解を深めてきました。今回の実施をきっかけとして、今後、ますますサイエンスカフェという試みが日本中に広がることを期待します。

なお、各地のカフェの報告は、ホームページに掲載する予定です。

<http://www.scj.go.jp/cafe/web-content/index.html>

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）付

(Tel:03-3403-1056、s253@scj.go.jp)

政府統計の改革に関するシンポジウム - 変革期にある政府統計への提言 - （御案内）

日 時：5月15日（月）13:30～17:00

会 場：日本学術会議 講堂

主 催：日本学術会議課題別委員会「政府統計の作成・公開方策に関する委員会」

標記シンポジウムの開催が第11回幹事会（4/10）において決定されました。

本シンポジウムは、現在、内閣府において統計制度改革検討委員会が設置され、政府統計の在り方について制度的検討がなされているところ、日本学術会議として、学術研究基盤である政府統計の作成・公開方策に関して総合的な検討を行うものす。

前半の基調講演では、Paul Cheung国連統計部長、黒田昌裕内閣府経済社会総合研究所長等から、国内の統計関係の委員会や国連における統計の改革の状況などを紹介していただきます。後半のパネルディスカッションでは、基調講演を踏まえた討論を行います。

参加申込方法： 参加は無料です。参加を御希望の方はE-mailにて必要事項(氏名(ふりがな)・年齢・職業・連絡先電話番号・E-mailアドレス)を御記入の上、下記宛にお申込みください。

申し込み・お問合せ先(E-mail) : sympo@sinfonica.or.jp

なお、詳細は、以下のホームページを御覧ください。

(http://www.scj.go.jp/ja/info/kokai_shinpo/pdf/11-s-3.pdf)

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官(審議第二担当)付

(Tel : 03-3403-1056、s254@scj.go.jp)

日本学術会議数学委員会シンポジウム「礎(いしずえ)の学問：数学 数学研究と諸科学・産業技術との連携」の開催(御案内)

日 時：5月17日(水)13:30~17:30 (受付開始 13:00)

会 場：日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議数学委員会、(社)日本数学会

後 援：文部科学省科学技術政策研究所

参加者：200名(事前登録が必要です)

標記シンポジウムの開催が第11回幹事会(4/10)において決定されました。

本シンポジウムは、我が国における今後の数学研究の充実や、諸科学・産業技術との連携推進に何が必要かを議論しようとするもので、2部から構成されます。

第1部では、諸外国における数学研究振興の取り組み、諸科学や産業界における数学の活用例や期待などを産学官の講演者に紹介していただきます。

第2部では、我が国の数学研究環境の現状から、数学研究を充実させ諸科学・産業技術の振興に活かすための具体的な構想を提案し、産学官関係者で討論を行います。

参加申込方法：5月11日（木）までに<register0600517@math.or.jp>宛に、
御氏名（とその読み仮名）、御所属と御連絡先をお知らせください。
なお、詳細は日本学術会議ホームページを御覧ください。

http://www.scj.go.jp/ja/info/kokai_shinpo/index.html

【お問い合わせ先】

日本数学会（TEL：03-3835-3483）

e-mail：register060517@math.or.jp

=====

日本学術会議ニュースメールは、日本学術会議第19期会員、第20期会員・連携会員、
日本学術会議協力学術研究団体などに配信しています。転載は自由ですので、関係団体
の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお
読みいただけるようにお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局（p228@scj.go.jp）まで御一報
いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34